ルワンダ国　急性期疾患の救命率を向上させる遠隔診断医療ネットワークシステムの普及・実証・ビジネス化事業(中小企業支援型)

株式会社アルム（東京都渋谷区）

対象国ヘルスケア分野における開発ニーズ（課題）

・疫学的転換を迎えたルワンダでは非感染性疾患（Non-Communicable Diseases, NCDs）に苦しむ人々の数が増加しており、死亡率は、7%（1990）から14%（2016）に上昇しているにもかかわらず、 循環器専門医はルワンダ全土で7名のみで、公的な医療機関には2名 しか在籍しておらず、医療資源の不足が問題になっている。
・加えて、医療機器や施設整備の遅れも診療の質を下げる大きな要因となっており、地方と都市間における医療格差が大きく、専門医を含めた大多数の医師と、先進的な治療機材を備えた医療施設が、首都・キガリに集中してしまっている。

提案製品・技術

・医療関係者向けチャットアプリであり、テキストや映像だけではなく、医療機関の医療用画像管理システム（PACS）に格納されたCT・MRI画像や血液検査データ等の医療データをセキュアな環境下で共有できる。
・医療機器プログラムとして日本初の保険収載され、その他米国（FDA）や欧州（CE）等でも承認されている

本事業の内容

- 契約期間：2021年12月～2025年2月
- 対象国・地域：ルワンダ国キガリ州キガリ市周辺
- カウンターパート機関：ルワンダ・バイオメディカル・センター（Rwanda Biomedical Center, RBC）（保健省傘下）
  （協力機関：ルワンダ国キガリ州キガリ市周辺の病院とルワンダ国内の診療所）
- 案件概要：ルワンダの中核病院を基点に、日本の最新医療ICTと専門医による遠隔診療基盤を構築し、急性期疾患の救命率を著しく向上させ、アフリカ全土に普及可能なモデルを実証する。現地医療者の日本での専門医療研修に加え、診断医療機器のネットワーク化による医療データを活用したAI診断支援や、日本の専門医による継続的なオンライン診断支援、及び適切な日本製医薬品処方に繋げるオールジャパンのエコシステムを構築する。

医療関係者間コミュニケーションモバイルアプリJoin

開発ニーズ（課題）へのアプローチ方法（ビジネスモデル）

・モバイル技術を活用したコミュニケーションおよび医療画像や医療データの共有・遠隔診断ツールを導入することにより、いつでもどこにいても適切な医療リソースへのアクセスが可能となり、ルワンダのヘルスケアにおいて課題となっている医師不足と地域格差の解決に貢献できる。
・中長期的な取り組みとしては、本事業のパートナーであり、政策運営者であるルワンダ・バイオメディカル・センター（RBC）やルワンダ情報化振興局（RISA）、彼らの母体であり、政策立案者である保健省やICT省と密に連携し、RSSB 等の社会保険の償還対象、もしくは、各省庁からのPPPとして事業を発展させることを目指す。

対象国に対し見込まれる成果（開発効果）

・成果1: 提案製品システムの有用性が中核病院の現地医師(専門医療を担う医師)により確認され、普及に向けた課題が明らかになる。
・成果2: 提案製品システムの地方診療所や保健所における医療支援ツールとしての有用性が確認され、普及に向けた課題が明らかになる。
・成果3: カウンターパート機関における遠隔医療システムの導入・普及に必要な体制整備が検討される。
・成果4: 提案製品システム普及に係るビジネス展開計画が策定される。

2024年4月現在